

# 夢

2009

いらか

支部だより

No.29

平成21年度 通常総会議案



社団法人 北海道建築士会小樽支部

## 重要文化財旧手宮鉄道施設機関車庫三号保存修理工事について

樋口 俊 英

工事 名称：重要文化財旧手宮鉄道施設  
機関車庫三号保存修理工事  
構 造：煉瓦造 床面積 263.6㎡  
屋根鉄板葺き越屋根付 木造小屋組  
工 期：平成18年9月4日～  
平成21年10月30日  
発 注 者：小樽市建設部建築住宅課  
設計・監理：財団法人文化財建造物保存技術協会  
請 負 業 者：株式会社 福島工務店  
工事概要：外壁煉瓦の劣化部分の張り替え、  
正面アーチ積替え、小屋組の解体及び復旧、屋  
根鉄板葺替え、建具の新設、床：旧土間叩き  
復旧、壁：漆喰塗り、構造補強、電気設備及び  
外構の整備工事等

重要文化財旧手宮鉄道施設は、平成13年11月14日に指定され、わが国における鉄道技術の発展を示す貴重な近代化遺産で、機関車庫三号は、明治18年(1885年)竣工の現存する国内最古の車庫で、煉瓦はフランス積みです。

工事は、約2年を経過、本年度は、内部の床・壁の仕上工事を復旧し、電気設備・外構の整備などの施工を予定しております。

重要文化財の保存修理工事は、一般建築での営繕的修理と違い、建物の修復と様々な歴史的調査が日々行なわれ、破損した建物を単に直すのではなく、調査によって判明した建物の「歴史や技術」を将来に伝えることが大切で、解体工事は、事前に検討を行い手順や解体範囲を決めて、修理技術者と職人とが一体となって順次解体を進め、解体前には確認できなかった隠れた部分の破損状況や痕跡が除々に確認されます。木部解体では、最も重要な作業の一つで、

木部を解体する際には、解体する部材が止めてあった釘穴の一つ一つに印を付けながら進め、取り外した部材を元の位置に復旧するため、全ての部材に位置を記した札(番付)を取付けていきます。これは、解体工事ではなく「取り外し作業」で、多くの時間と労力が必要です。保存修理の現場では、可能な限り古い部材を残してゆく方針を重視し、たとえ多くの部分が破損していても、構造的な欠陥が生じない限り部分的な補修を優先します。

史料調査や解体調査により、点検ビット・旧土間叩き・漆喰塗り・半円アーチ積替え・大波鉄板葺・煙突など「明治時代へ」の復原です。

また、随所に近代の技術で、改良杭・煉瓦壁の止水工事・炭素繊維による蛇腹煉瓦の補強工事・外壁の強化剤及び撥水処理等と工夫を凝らした工事も施されています。

工事の進行に応じて、現場職員を含め各職人の作業への取り組む姿勢の変化を感じながら、「数十年に一度の大修理」とも称される工事に携わった事を誇りに思い、小樽市民の貴重な財産となり、後世へ伝承する事を願っています。

残す工期を、無災害での完成を目指して、建設当時の技術や素材の継承・形状や工法などそれまでのものを踏襲した雄姿を本年度中には公開出来ると思います。

最後に、この紙面をおかりして、本事業に従事されます関係各位の皆様のご指導・ご協力に対し心より深く感謝し、今後とも宜しくお願ひ申し上げます。

勤務先：株式会社 福島工務店

## 第33回 建築士会全道大会「苫小牧大会」に参加して

広瀬 久 也

平成20年10月4日(土)、苫小牧市にあるグランドホテルニュー王子において第33回北海道建築士会全道大会「苫小牧大会」が開催されました。

全道大会の次期開催地が小樽市であることから小樽支部からは約30名の会員が大会に参加しましたが、金谷青年委員長を含む青年委員4名は、大会に先だって開催される青年サミットに参加するため、前日から苫小牧入りをしていました。

青年サミットは、「リサイクル活動を通し未来を考える ～ゴミ処理の現状と減量について建築士にできること～」をテーマにリサイクルプラザ苫小牧にて開催されました。施設の説明を受け、施設内を見学した後に、2班に分かれて「紙すき体験(はがき作成)」を行いました。私が参加した班の藤田講師は、講師歴4ヶ月ということで不慣れな感じかと思いきや独特の話し方でマイペースに説明を続ける大変ユニークな方で、楽しみながら体験を進めることができました。

会議室に戻り、我々が日常行っている又はこれから取り組むエコ活動について意見交換を行い、個人的なものから仕事に関わることまで意見を出し合いましたが、リサイクル製品が割高であるなど簡単にはいかない現状を再認識するとともに、建築士が積極的に環境問題に関わっていく必要性を改めて感じました。

最後に各支部から今後の活動のあり方や方向性についてのアクションプラン報告があり、各支部の頑張りや共通の悩みなどを感じつつ、懇

親会の会場であるオートリゾート苫小牧アルテンに移動して更に交流を深め、青年サミットは終了しました。

全道大会当日は、来年のための情報収集ということで写真を撮影しまくり、用意された弁当を食べながら来年の弁当について話し合うなど、すっかり準備モードに入っていました。一度各分科会に分かれた後、堀井道議の基調講演並びに式典のために再び集合しましたが、式典は、会場中央に映し出された「王子製紙アイスホッケーチーム」や「駒大苫小牧高校」などの躍動的な映像から始まりました。式典が進み、作左部支部長が次期開催地の挨拶を行うと、来年は小樽なんだという実感が湧いてきました。



式典後の懇親会では、各テーブルをまわって「小樽・後志大会」をアピールするとともに、全員が壇上に上がり「待ってます」の文字を掲げ歓迎の意を表しました。

準備は大変でしょうが、「小樽・後志大会」が有意義な大会となるように私も協力していこうと考えています。

勤務先：小樽市建設部